

テーマ：目標像4 こどもが自己肯定感を持ち健やかに育つ

目標像5 安心して妊娠・出産・子育てができる

**【参加議員】**

片山義久（ファシリテーター・記録）

鎌田泰春

内田あや

松永靖恵

**【市民参加者数】**

10名

**【学校給食】**

市民から「オーガニック食材を使った給食に取り組んでほしい。また、近隣の他市（志木市、新座市、朝霞市など）と比べて、和光市は保護者の給食費負担額が高いのではないかと。市からの補助をもう少し増やしてほしい」との意見が出されました。

議員は「和光市は給食センター方式ではなく自校方式を採用しており、市内産の野菜を取り入れるなど、質の高い給食を温かい状態で提供できているため、その分原価がかかっている。限られた市の予算の中で補助を行っている事情を理解してほしい」と答えました。

**【障害児支援・療育・教育】**

市民から「市内の療育施設の選択肢が少なく、市外へ通う親の負担が大きい。また、保育所等訪問支援などを利用したくても、学校側から断られるケースがある。作業療法士や言語聴覚士などの専門職が学校を巡回するなど、福祉と教育の連携をもっと進めてほしい」との要望がありました。

議員は「市内の療育施設が満杯で母子の負担が大きいことは把握している。市内の保育士や生活指導員が給与水準の高い都内へ流出してしまう人材不足も深刻な課題だ」と述べました。

### 【キャリア教育・自己肯定感】

市民から「和光市には研究機関や企業が多くあるため、そうした地域資源を巻き込んだキャリア教育が可能だと考えている。子どもたちが向上心を持てるような空気感を醸成してほしい。地元の街の人たちの仕事をカードゲームのように子どもたちに紹介するものを作って、関心を持ってもらうのも良いのでは」との発言がありました。

議員は「キャリア教育を公教育の中で学ぶ機会を設けたり、子どもたちを褒めるアワードのような仕組みを作ったり、自己肯定感や市への愛着を育てていきたい」と述べました。

### 【医療・行政サービス】

市民から「市内に産婦人科が少なく、若い女性や子どもが気軽に性や身体の悩みを相談できる『ユースクリニック』のような場所が必要だ」との訴えがありました。

議員は「市が特定の病院を誘致することは民間企業のため難しいが、性教育などについて講演会を開くなどのアプローチを検討したい」と答えました。

市民から「他市ではマイナンバーカードと子ども医療費受給資格証の連携が進んでいるのに、和光市ではいまだに紙の受給者証が必要だ。当たり前のインフラ整備を急いでほしい」との指摘がありました。

議員は「早急に進めなければならない課題だ」と応じました。

### 【不登校支援】

市民から「旧保健センターに新しくできる不登校支援センターの設置場所について、学校内にするべきか、学校から離れた場所にするべきかでこども家庭庁と文部科学省の見解が異なっているが、どう考えるか」との問いかけがありました。

別の市民から「一概にどちらが良いとは言えない。環境を変えることで通える子もいれば、学校内の相談室なら行ける子もいる。子どもが通えるようにどうバックアップできるかが重要だ」との意見が出されました。

### 【総括】

意見交換会では、学校給食、障害児支援、キャリア教育、医療・行政インフラの整備など、子育てや教育に直結する多岐にわたるテーマで活発な意見交換が行われまし

た。市民からは当事者としての実体験を踏まえた切実な提案が寄せられ、議員からは予算や人材不足といった現状の課題とともに、解決に向けた方向性が示されました。